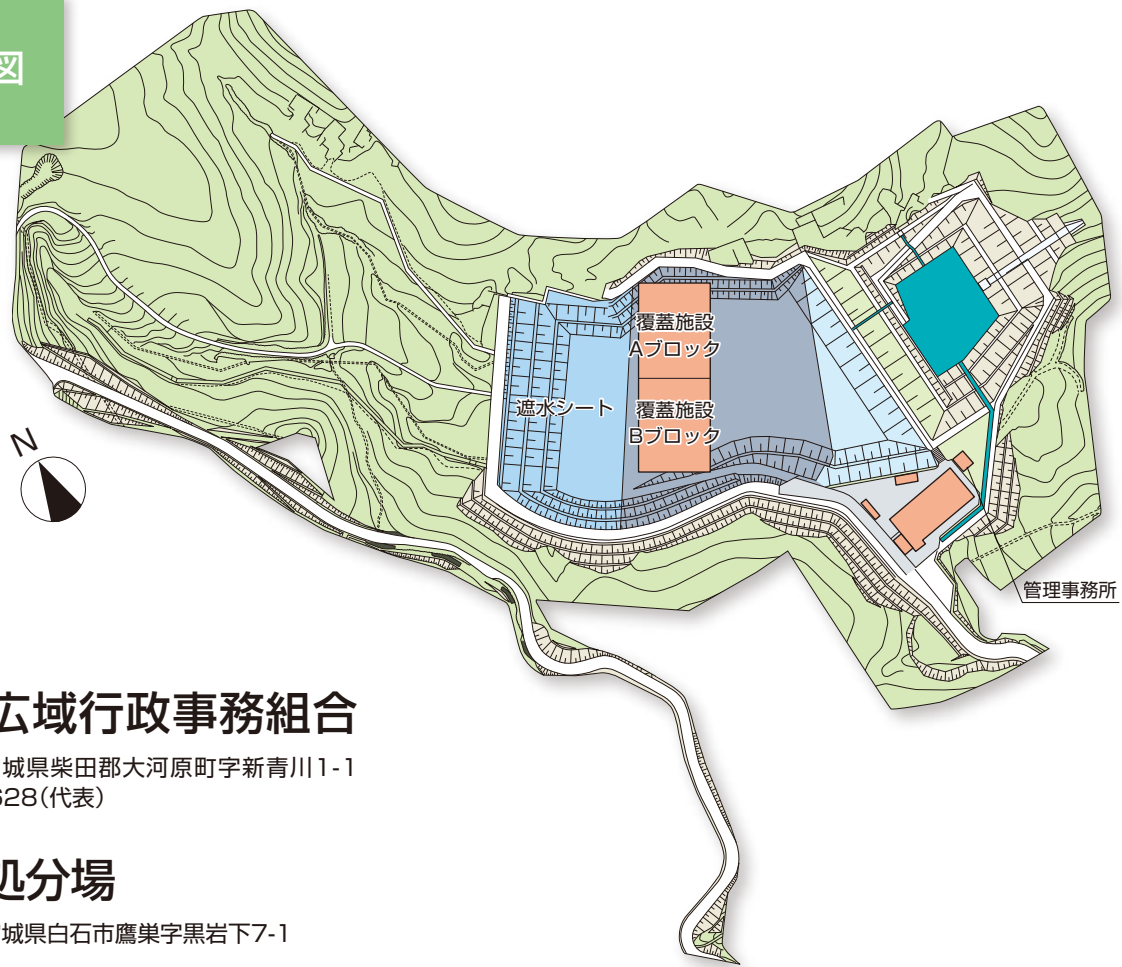


案内図



敷地配置図



仙南地域広域行政事務組合

〒989-1264 宮城県柴田郡大河原町字新青川1-1
TEL 0224-52-2628(代表)

仙南最終処分場

〒989-0222 宮城県白石市鷹巣字黒岩下7-1

仙南最終処分場

地球にやさしく経済的な最終処分場延命化



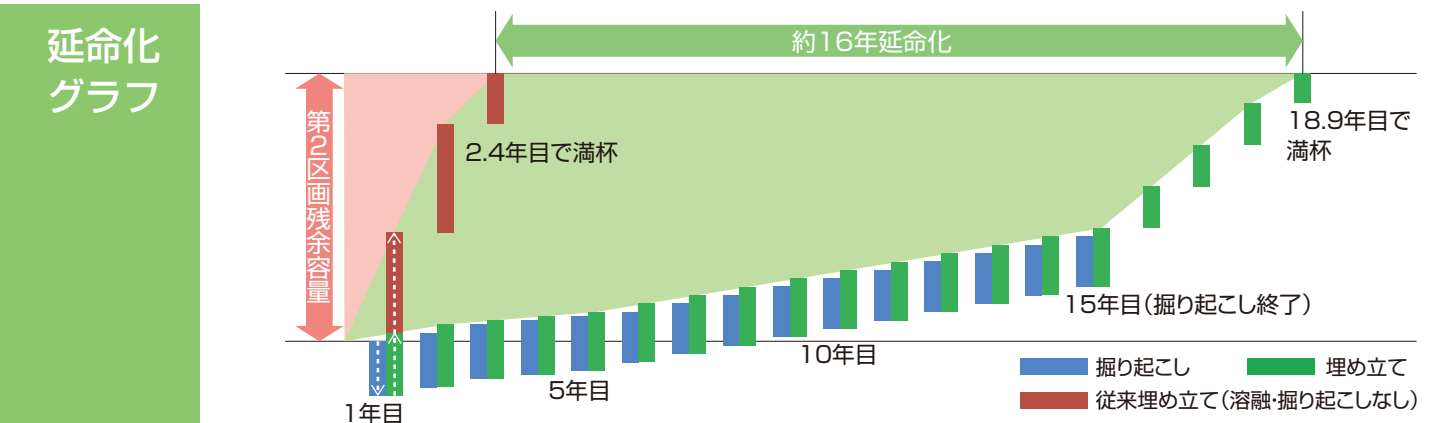
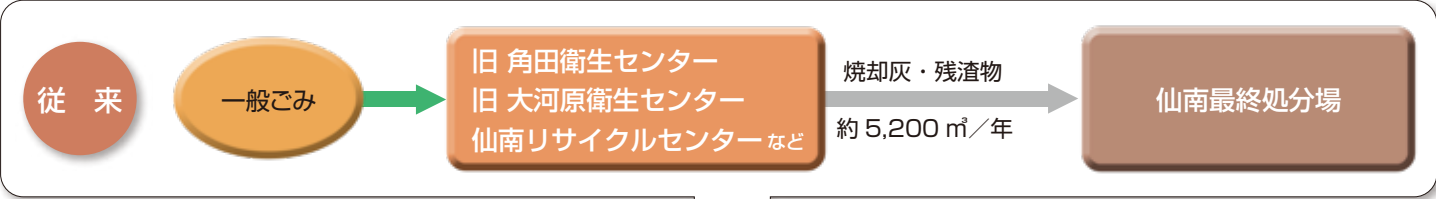
仙南地域広域行政事務組合

ごみの溶融スラグ化と掘り起こしごみの処理により、最終処分場の延命化を図ります。

仙南最終処分場は平成10年1月から埋立を開始し、これまで当組合が所有する施設から排出される焼却灰や残渣物を埋め立ててきました。その間、ごみの減量化や直接埋め立てていた仙南リサイクルセンターから排出される残渣物の一部を焼却処理して減容化するなど、埋立物を減らし処分場の延命化を図る取り組みをしてきましたが、平成31年には満杯となる見通しでした。

- しかし、平成29年3月に竣工した仙南クリーンセンターでは、流動床式ガス化溶融炉を採用し、
 - ごみを溶融処理して有効利用可能なスラグとして回収し埋立物を大幅削減
(埋立物量：従来約5,200m³/年→現在約2,500m³/年→1/2以下に削減)
 - 仙南最終処分場第2区画の埋立物を掘り起こして溶融処理することにより埋立空間を創出
(掘り起こし量：約2,100m³/年→新たな埋立空間創出)することにより、16年以上の延命化が可能になりました。

ごみ処理の流れ

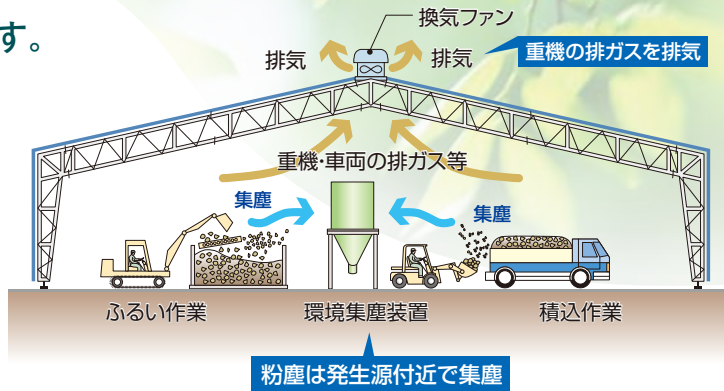


掘り起こし、埋め立て作業は覆蓋内で行います。

- 周辺への粉じんの飛散を防止しつつ、作業環境を良好に保ちます。

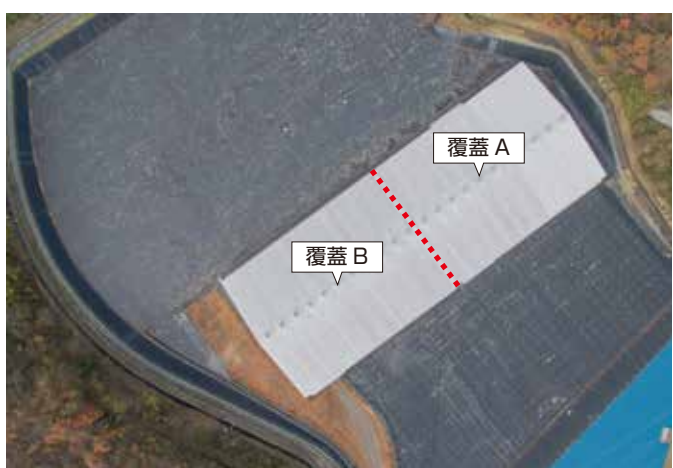
作業を覆蓋[※]内で行うことにより、周辺への粉じんの飛散を防止します。一方、重機などの排ガスは換気ファンで排気し、掘り起こしごみの前処理で発生する粉じんは、専用の集塵装置にて発生源付近で集塵して良好な作業環境を確保します。

※覆蓋：大型のテント、寸法（1基あたり）幅40m×長さ52m×高さ10m



- テント式の覆蓋を2基設置し、順次移動させながら作業を進めます。

埋立地という不安定な地盤上に覆蓋を設置するために、は作業に支障のない最小限のサイズとし、掘り起こし・埋め立て作業の進捗に応じ、これを移動させる計画です。



掘り起こし作業フロー

掘り起こしたごみは、覆蓋内でダンプにより移送し、前処理として選別を行います。選別には、重機のアタッチメントを篩タイプに変えたものを使用します。篩下を処理対象物として仙南クリーンセンターへ搬出し、篩上は処理不適物として埋戻します。

